

音楽科における考える力を高めるための授業の工夫・改善（2年次目実践）

村上市立村上小学校 教諭 小野理恵

1 目指した子どもの姿

昨年度の取組では、児童の主体的な学習によって、歌唱表現をする上で工夫したいことを根拠を明確にしながらか数多く見つけていくことができた。しかし、「このように歌いたい」という願いは膨らんだが、歌唱表現するための技能が伴わず、できた喜びを十分に味わうことができなかったことが課題として残った。

そこで、今年度の取組では題材または教材において育てたい「考える力」を次のように設定し、ジグソー法を参考にした役割別グループ学習を取り入れた授業改善に取り組み、児童の音楽表現する力を高めていきたい。

- ・このように歌いたいという“思いや願い”と、共通事項や表現に関する事項とを結び付けて考えたり話したりする力
- ・よりよい表現に向かうために既習の学習方法を生かしながら試行錯誤する力

2 具体的な手立てと児童の変容

(1) 具体的な手立て

- ・一斉学習とグループ学習の工夫
- ・学習環境の工夫
- ・学習記録の蓄積

(2) 授業の実際と児童の変容

〈実践授業〉

題材名：詩と音楽を味わおう 主教材：「思い出のメロディー」（深田じゅんこ作詞 橋本祥路作曲）

① 一斉学習とグループ学習の工夫

主教材を扱う3時間の中に、一斉学習とグループ学習を効果的に設定する。グループ学習は4回設定し、途中に1回ジグソー法を参考にした役割別グループ学習を実施した。

〈全3時間の学習の流れとグループ学習の位置付け〉

教材（楽曲）提示 → 一斉学習及びグループ学習①（楽曲分析と学習課題の把握） →
グループ学習②（思いや願いを明確にする） → 共有
グループ学習③（思いや願いに近づくために歌唱練習する） → 発表、相互評価 →
役割別グループ学習（参考：ジグソー法）
グループ学習④（練り上げる） → 一斉学習による全体仕上げ → 振り返り



児童の変容

一斉学習及びグループ学習①において、歌詞と共通事項（強弱、旋律）と結び付けながら楽曲分析をしていった。児童の話し合いや発表と、教師の問い返しを重ねる中で、作曲者の意図を児童なりに解釈し、曲への親しみが増していった。感受したことと共通事項とを結び付けて明確になった「このように歌いたい！」という“思いや願い”が学習の原動力になり、グループ学習への意欲となった。

グループの
“思いや願い”

楽曲分析
した楽譜

グループ学習によ
って膨らんだ部分

① 強弱をつけて歌いた
理由は、**心**のときめきを
相手に伝えたいから。

② 変化をつけて歌いたい
理由は、**大事な**ことをわすれ
ないでほしいから。 3

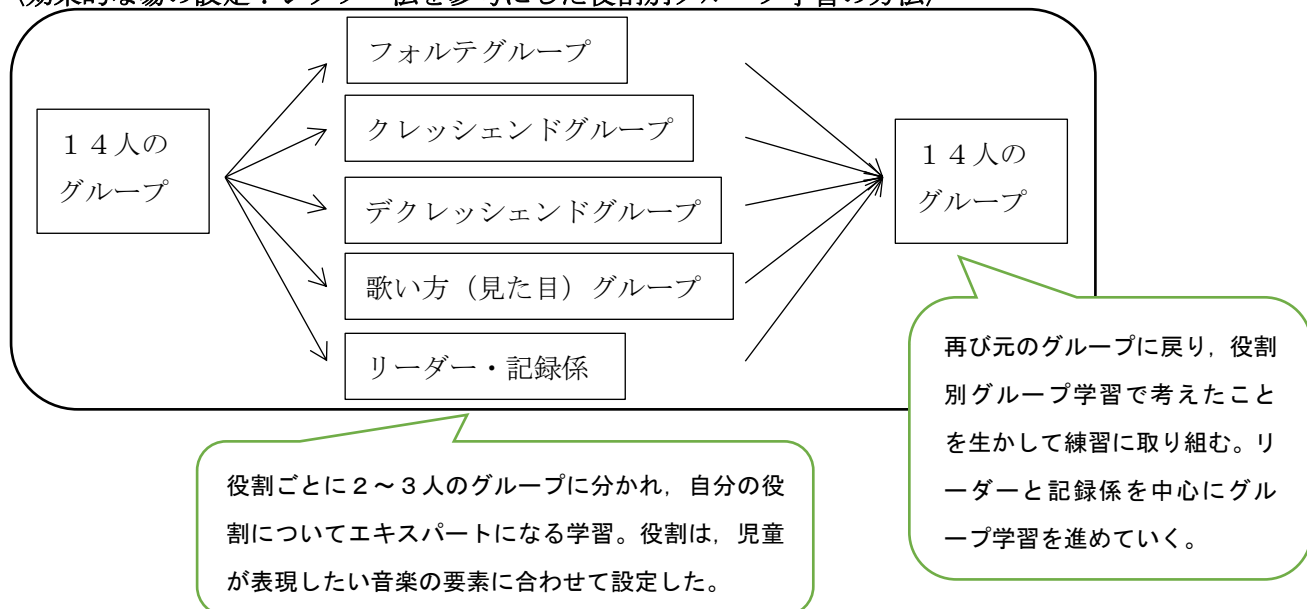
「あ、あの時...
悲しさやつかさ
代のときめきを大切にしたい
強調したい
だばん小にするこ
大事が増す!
伊の中に残したい思い

DECRESCENDOの意味を、グ
ループでの話し合いと教師の問
いかけによって深めていった。

グループ学習③の後、発表と相互評価を経て、ジグソー法を参考にした“役割別グループ学習”を取り入れた。児童は、グループの歌がもっとよくなるために自分の役割についてエキスパートになると、意欲的に学習に取り組んだ。既習の練習方法や他グループからのアドバイスカードを頼りに、“思いや願い”と共通事項を根拠に表現の方法を話し合い、その方法でうまくいか歌い試し、さらに話し合いを重ねる姿が見られた。リーダーと記録係の児童は、各役割を回り、話し合いの状況を把握したり、その後のグループ学習の計画を立てたりした。

その後のグループ学習④では、各役割が考えたことを発表し、リーダーが中心になってさらに歌う活動を重ねていった。歌唱の技能が、児童の“思いや願い”に近づいていった。

〈効果的な場の設定：ジグソー法を参考にした役割別グループ学習の方法〉



fにするために、ここで技を使ったらどう？

そのためには、しっかりブレスをしないと。



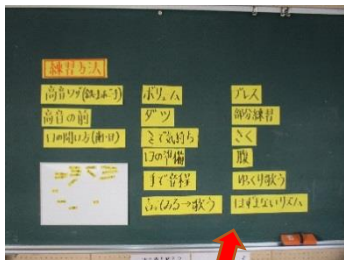
口の開け方に気を付けたらうまくいくよ。

考えた方法でうまくいくか、試してみよう。

② 学習環境の工夫

児童主体で学習を進めるための補助教材を準備し、活用させるようにした。（写真1）

- ・ 練習方法カード…既習の練習方法を児童が自分たちの言葉に表して蓄積したカード
 - * 大小2種類用意する。大きな方は話し合いの際のヒントに活用し、小さな方は役割別グループ学習の際にホワイトボードに貼って使用する。
- ・ ホワイトボードの拡大楽譜…拡大楽譜を貼ったホワイトボード
 - * グループ学習の際、黒板に貼ってグループ全体へ示し、報告したり練習の手立てとしたりする。
- ・ 録音…タブレット端末の録画機能
 - * 歌唱や表情の様子を録画してその場で確認し、グループ学習に役立てる。また、学級全体の歌唱の成長を確認したり実感したりするために用いる。
- ・ アドバイスカード…相互評価の際に記入するカード
 - * よいところを認め合い意欲につなげたり、課題を明確にしたりする。



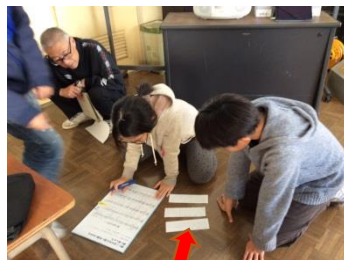
(写真1) 練習方法カード



ホワイトボード



タブレット端末



アドバイスカード



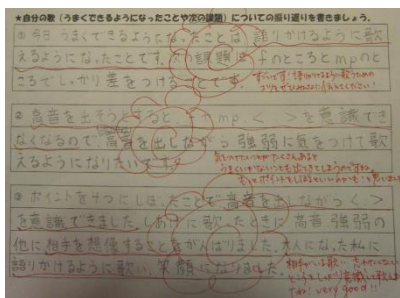
グループ学習の際、児童は補助教材を存分に活用し、それを手立てに話し合うことや歌って試すことの回数を重ねていった。表現するための技能を獲得するために、児童が蓄積してきた練習方法や、自分たちの歌う姿が客観的に分かる録画やアドバイスが有効に働いていた。そのため、児童独自の歌唱方法になって行き詰まることや、目指す歌唱表現から逸れることなく、児童主体の学習が展開され、その時に抱いた課題を解決するための方法を実践に見つけていった。

③ 学習記録の蓄積

自分たちの歌を客観的に評価するためにタブレット端末に録画を残したり、自分自身の歌を振り返る学習カードを用意して毎時間記録を蓄積させたりした。



自分自身の歌への気づきができるようになり、さらに授業の中で用いた共通事項や表現に関する事項を根拠にした振り返りができるようになってきた。また、タブレット端末の録画映像を3段階（授業の前半・中間・まとめの段階）で比較することにより、学級全体の歌唱を客観的に評価することができた。よいところと今後の課題が明確になり、次の授業や今後の合唱への意欲になっていた。



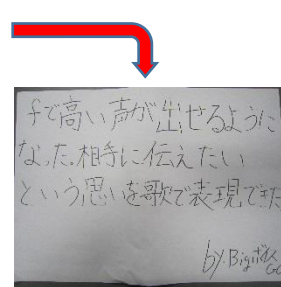
児童の振り返り記述



5項目（役割別：f、<、>、歌い方、その他）について



よいところと課題を付箋に書いて貼ってまとめ、全員で共有する



3 成果と課題 (○成果 △課題)

○ ジグソー法を参考にした役割別グループ学習を取り入れることで、児童の意欲が高まり、言語活動と音楽表現がより充実し、よりよい音楽表現を獲得する児童の姿につながった。音楽の学習において目的を明確にしたグループ学習を複数回設定することは、考える力を育み、よりよい音楽表現に向かうことができる。

児童主体の学習が展開されるために、共通事項と表現に関する事項とを結び付けて楽曲を理解することや、児童が活用できるものを蓄積していくことも併せて重要である。明確な“思いや願い”と歌唱表現をする上での“根拠”をもたせることが、児童主体の学習につながる事が分かった。

△ ジグソー法で児童が意欲的に学習した分、元のグループに戻ったときにはやりたいことや情報が多くなり、学習が停滞しそうになった。役割別学習の進め方について、よりよい方法を模索していく必要がある。